

水田畦畔、農道におけるグリホサート系除草剤抵抗性「オヒシバ」対策

土壌散布(発生抑制)剤の活用で除草剤散布回数を削減!

令和3年2月8日
加須農林振興センター
J A ほくさい

時期	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
オヒシバ	▲																													
水稻(作業)	畦塗・草刈						田植						出穂			収穫														
雑草管理の考え方	土壌散布(発生抑制)			オヒシバ発生前～始						土壌散布(発生抑制) + 茎葉散布(枯死)			水稻出穂2週間前まで						茎葉散布(枯死)(残留種子軽減)			水稻収穫後早め								
除草剤散布例	カソロン粒剤6.7									ダイロンゾル + ザクサ液剤									アフターエイドフロアブル (+ラウンドアップマックスロード)*											
																														
	散布直前			散布17日後						散布直前(オヒシバ出穂直後)			散布13日後									散布直前			散布19日後					

オヒシバの特徴

- 穂が見えて2週間くらいで種子ができ、その2週間後には発芽する。
- 20℃を超えると発芽し、気温が高ければ、日長に関係なく1年の間に何度でも生育・出穂・発芽を繰り返す。
- 日当たりが良いところが好きなので、他の雑草が生えているとオヒシバは生えにくい。
- カメムシ等の水稻害虫の住みかになる。

オヒシバ対策の基本

- 穂が見えたらただちに防除する。
- カメムシ等を水稻に移さないために、水稻が出穂する2週間前までに防除する。
- 刈払機で刈り取る。
- 計画的な除草剤散布を行い、同じ成分の除草剤を続けて使わない。

雑草対策の重要ポイント

- 雑草を枯らすための茎葉散布剤だけでなく、発生を抑える土壌散布剤を組み合わせ、散布回数を削減する。
- 登録内容に従った使用回数・量・濃度を散布する。
- 同じ成分の除草剤を続けて使わない。

表 除草剤の農業登録適用内容(令和3年1月27日現在)

薬剤名(成分名)	作物名	適用場所	適用雑草	使用時期	使用量	散布液量	使用方法	使用回数
カソロン粒剤6.7 (DBN)	水田作物(水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草及び多年生広葉雑草(まめ科を除く)、スギナ	秋冬期～春期の雑草発生前～発生始期	4～6kg	—	全面土壌散布	1回
	樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草発生前～発生始期	6～9kg	—	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面土壌散布	3回以内
ダイロンゾル (DCMU)	水稻(水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草	雑草発生前～生育初期(草丈15cm以下)ただし、水田畦畔は収穫30日前まで	200～250ml	100L	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	1回
	樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草発生前～発生始期	1000～2000ml		植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布又は全面土壌散布	3回以内
ザクサ液剤(グリホサートP)	水田作物(水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草、多年生雑草	収穫7日前まで(雑草生育期:草丈30cm以下)	500～1000ml	100～150L	雑草茎葉散布	2回以内
	樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期(草丈30cm以下)	100～200L	100～200L	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3回以内
アフターエイドフロアブル(キザロップエテル)	水田作物(水田畦畔)	水田畦畔	一年生及び多年生イネ科雑草(スズメカタヒラを除く)	雑草生育期	500～1000ml	100L	雑草茎葉散布	2回以内
	樹木等	公園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500～1000ml		100L	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布
ラウンドアップマックスロード(グリホサート*)	水田作物(水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草	収穫前日まで(雑草生育期)	200～500ml	50～100L	雑草茎葉散布	3回以内
	樹木等	公園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	200～500ml		100L	

農業使用の際は、ラベル表示を必ず確認し、飛散防止・農業使用記録の記載に努めましょう。

*グリホサート系除草剤は、オオアレチノギク、ネズミムギ等、他の雑草でも抵抗性が確認されているので、連用は避ける。

※広葉雑草が発生している等、必要がある場合に散布

(10a当たり)